



編集委員が地域の皆さんにインタビュー!

## 今回は新型コロナウイルス対応に留まらず、 村民だれもお世話になっている 診療所長の張先生にインタビューしました。

小久保：ドクターになったきっかけは？

張：小学校の時から医者になろうと文集に書いていました。人と接する仕事で成長できると思っていたので、多くの人と関わることのできる医者になりたい、子供から高齢者まで幅広く診療できる家庭医を目指したいと思いました。

小久保：新島歴はどのくらいですか？新島の診療所はいかがですか？

張：新島に来て4年目です。今は光回線も開通して、チルドの注文もできるし、生活面で不便は感じません。島の行事に顔を出して、親しみやすいお医者さんになることが理想でしたが、村民の皆さんの家庭医として、診療は平等かつ冷静でなければなりません。距離感  
は意識しています。

小久保：ストレス解消法はなんですか？

張：本や食料品のネットショッピングが楽しみです。新島に来た当初は海にもよく行っていましたが、今の立場（所長）になってからは、初動が遅れると申し訳ないので行っていません。それも含めて島のお医者さんですね。

小久保：今現在、島民は新型コロナウイルスへの心配が大きいと思います。住民に伝えたいことはありますか？

張：皆さんやっていると思いますが、手洗い、うがい、人と接するときはマスク。3密を避けること。持病がある方はしっかりと薬を飲み、食事と運動、睡眠、規則正しく過ごすことです。

コロナ対策をすることで、最近は急患が減りましたが、この時期に熱中症になってしまったりコロナの発熱と区別がつかないので、しっかりと水分補給をして熱中症対策もしましょう。そして、もし熱が出たり、体調が悪くなったりしたら、決して隠さず我慢しないで相談して欲しいです。診療所の受け入れ態勢はできていますので。

議会だよりの記事選定にあたって、そのときの村の生活・政治にとつて重要な物事を、象徴的に取り上げるように意識しております。

我々の編集作業も時代に即したテレワーク対応に変わりました。対面でないオンライン編集会議、インターネット上・Eメール・FAXを使った原稿共有・データ共有などを組み合わせて、スピードアップしています。

議員としての観察眼と取材力を磨きつつ、より内容を掘り下げて伝えられるような議会だよりになっていけるよう、努力していきます。率直なご感想やご提案など、お待ちしております。

(副委員長：木村諭史)

広報編集委員会メンバー

委員長：小久保利佳

副委員長：木村諭史

委員：前田泉

：前田寿夫

：青沼弘

編集後記

議会だよりのスピーカーズは、知っている方の診療では聞けないお話もあるのでよく読んでいます。



張 耀明 (ちょう・ようめい) 先生プロフィール  
新島村国民健康保険診療所長 昭和58年8月26日生まれ  
37歳。大阪出身。大阪府立北野高校卒業後、関西医科大学に進学、卒業後、洛和会音羽病院(京都市)、亀田ファミリークリニック館山(千葉県)を経て、平成29年より新島村国民健康保険診療所 所長として勤務。